

浜松市はままつ夢基金事業費補助金事業完了報告書

1 団体名、事業名、補助金額等

(1) 団体名	特定非営利活動法人はままつ未来会議		
(2) 事業名	第 12 回浜松ジオラマグランプリ		
(3) 事業費総額 および補助金 交付決定額	事業費総額	482,232	円
	補助金交付決定額	99,000	円
(4) 実施事業の 概要	「ものづくりの街・浜松」で行う「ものづくりの楽しさとすばらしさ」を競う日本最高峰のジオラマコンペティション。		

2 事業の目的について

(1) 地域の課題	・ 中心市街地（まちなか・浜松駅周辺）に観光拠点が少ない。 ・ 中心市街地が元気で魅力的でないとい若者の浜松離れが進む。 ・ 浜松市民がまちなかに出てくる動機が少ない。
(2) 事業の目的・必要性	目的：・ 芸術を活かした観光化と中心市街地活性化 ・ ものづくりの文化の醸成 必要性：・ 遊興施設が増えてきたザザシティにおいて、子どもから大人まで誰もが楽しめる文化的なイベントが必要。
(3) 事業の先進性と独自性	・ 世界的に有名なジオラマ作家、山田卓司氏の地元で行う日本最高峰のジオラマコンペティションである。 ・ 全国に模型コンペは多々あるが、ジャンルを定めない本格的な情景模型のコンペは最初で唯一。 ・ 4 人の審査員の審査点と来場者の人気投票が 50 : 50 の割合で集計審査され、各賞が決まる。 ・ 投票券には作家・作品へのコメント欄があり、投票券は集計後にすべて作家に贈られ、作家の励みとなっている。

3 事業の実施内容

(1) 事業内容	模型専門誌 2 社による一次審査を経て、全国から応募のジオラマ 43 作品（香港から 1 作品）を、浜松ジオラマファクトリーと同じフロアの特設会場に展示公開し、ジオラマの第一人者山田卓司氏など 4 人の審査員と一般来場者の投票を集計してグランプリおよび各賞を選定した。 応募作品は年々レベルが上がり、今年は特に見応えのある作家性の強い作品が集まった。その中でグランプリに輝いたのは、青山祐司氏（愛知県）の『ネコブネ～ノラの箱舟～』。卓越した造形力と発想力が審査員の圧倒的な支持を得て、2021 年からの 3 連覇となった。 準グ
----------	--

	ランプリは、大嶋了氏（山梨県）の『干し柿』、新人賞（浜松ジオラマグランプリ初参加 10 作品の中から選定）に、ゆうさん（静岡県）の『想いで眠る納屋』が選ばれた。 来場者による人気投票第一位は、準グランプリの『干し柿』。 多くのメディアに取り上げられ、中でも NHK のローカルニュースおよび列島ニュース（全国版）での影響は大きく、連日、老若男女多くの方が会場を訪れた。土曜日・日曜日には入場に長蛇の列ができるほどの賑わいを創出した。第 12 回と回を重ねる中で、模型愛好家からの高い評価だけでなく、浜松まちなかの夏の風物詩としても市民に定着してきた。 上位入賞作品は、浜松ジオラマファクトリーで 1 年間展示する。	
(2)実施場所	ザザシティ浜松西館 1 階特設会場 浜松市中区鍛冶町 15 番地	
(3)対象者	作品応募者：ジオラマ愛好家 来場者：浜松市内外の老若男女すべて	
(4)実施体制と事業スケジュール	①人員配置・役割分担等	計画～準備（募集要項、出展関係、広報、助成金申請、後援申請、協賛社担当、会場、運営、審査員担当、表彰式、受賞者展、コロナ対策、会計） 団体正会員 10 人 前日会場設営：団体正会員 6 人、ボランティア 3 人 大会当日運営（4 日間）：団体正会員 延べ 20 人、ボランティア 延べ 12 人
	②事業期間	令和 5 年 8 月 24 日 ～ 令和 5 年 8 月 27 日
	③実施スケジュール	① 令和 5 年 2 月 大会開催要項作成、発表 審査員調整 ② 令和 5 年 5 月 20 日(土)～6 月 20 日(火) 作品公募（大会公式サイト応募フォームより） 公募ガイド等掲載 ③ 6 月上旬 チラシ・ポスター制作、協賛社（景品等提供）獲得 ④ 6 月下旬～7 月上旬 第一次審査・通知、ボランティア募集 ⑤ 7 月上旬 エントリー料徴収、大会告知活動 ⑥ 8 月初旬 図録（公式パンフレット）制作、副賞・景品準備 ⑦ 8 月 23 日(水) 一次審査通過作品の搬入、会場設営

		⑧ 8月24日(木)～27日(日) 大会開催 作品展示公開、人気投票、審査、表彰 審査委員：山田卓司氏 ジオラマアーティスト 金子辰也氏 静岡文化芸術大学教授 礒村克郎氏 ドールハウス作家 美海きょうこ氏 ⑨ 8月27日(日) 会場撤収 ⑩ 8月28日(月)～ ジオラマファクトリーにて受賞者展開催
--	--	--

4 事業の目標と成果

(1) 事業の目標と成果の確認	① 事業の目標とその成果の確認方法	事業の目標： ・プレスリリースの活用、チラシ・ポスターの市内全協働センター及び文化施設、市内全図書館への掲示・配架依頼など、大会告知の拡大により多くの来場者を得て、「ものづくりの楽しさとすばらしさ」を感じてもらう。 ・グランプリ来場者を常設展の浜松ジオラマファクトリーへの入場につなげる。 成果の確認： ・多数のメディア（NHK、静岡朝日テレビ、静岡新聞、中日新聞、朝日新聞、浜松ケーブルテレビ）に取材され、一般来場者が例年より増えた。（来場者 約2,500人） ・会場が来場者と出展者の笑顔であふれていた。 ・投票券のコメント欄で、作者・作品への温かいメッセージがたくさん寄せられた。（総投票数3,240票/一人2票 参考：2022年1799票/一人2票） ・グランプリ開催4日間の浜松ジオラマファクトリー入館者数は649人。（参考：通常週末平均50～60人）
	② 目標達成のための工夫	・8月1日、浜松市長に理事長と広報担当が面会して大会の趣旨を説明し、浜松市の応援を要請した。その結果、シティープロモーション課からは各メディアへの告知と、浜松市公式SNSでの紹介、また中区振興課を通して大河ドラマ館でのポスター掲示の協力を得ることができ、浜松市民への周知を図ることができた。 ・紹介動画を複数作成し、SNSで拡散した。

	③事業終了後の展開	・上位受賞作品を浜松ジオラマファクトリーに展示する、受賞者展を 2024 年 8 月まで開催。随時 SNS にて周知を図る。 ・過去のグランプリ受賞者から、グランプリ作品の展示会の提案をいただいた。（開催詳細は未定） ・グランプリ受賞作品が秀逸で、模型界で大きな反響を呼んでいる。 ・西部協働センター秋祭り（2023 年 11 月 18 日・19 日）にて、浜松ジオラマファクトリー出張展示。（山田卓司氏作品 10 作品貸し出し）
--	-----------	---